

日経配当指数、13年の最終値 過去最高に

日本経済新聞社が1日まとめた日経平均・配当指数(2013年)の最終値は226円73銭と、12年に比べ18円81銭上昇し、データのある1998年以降で最高になった。指数が上昇するのは4年連続。業績拡大を受けて、主要企業が相次いで株主への配分を増やしていることが背景にある。

日経配当指数は、日経平均株価の構成銘柄をある年の1月から12月まで保有していた場合に得られる配当額を指数化したもの。3月末で13年分の配当額が確定したため、最終値が決まった。

12年との比較可能な構成銘柄のうち、増配したのは104銘柄と、減配の37銘柄を大きく上回った。上昇への寄与度が大きかったのはトヨタ自動車(7203)やトレンドマイクロ(4704)、KDDI(9433)などだった。

決算期が集中する14年3月期末の配当は6月の株主総会後に14年の指数値に反映される。

※日経平均・配当指数についての詳細は[こちら](#)。